

◇ 中期計画骨子（2025年度～2030年度）

1. 「各施設の黒字化、法人の黒字化を毎年達成しよう」
福祉事業は人が存在する限り不変の事業である為、各施設（サービス）が安定的に黒字化することはイコール自らの生活を安定させることに繋がる
2. 人口減少社会の中、人材不足の将来を見据え介護機器（ICT・AI等）の導入、機器を活用した業務への切替え、仕組みの確立
3. 法人設立20年を迎え、これからの10年を見据えた法人組織あり方の見直し

◇ 2026年度事業方針（計画）

I 黒字化の維持継続

『収益性を意識した経営の実践』

- ・稼働率の安定確保と空床期間の最小化
- ・加算算定の適正化と収益機会の最大化
- ・人員配置の最適化と生産性向上
- ・地域連携の強化を進めることによる利用促進

II 新規事業立ち上げ、取り組みの検討

- ・保育事業と障害事業の連携・融合
- ・高田エリアでの在宅サービス展開の検討
- ・法人の専門性を活かした相談型サービスの構築
- ・制度の狭間にある生活課題に対応する支援体制の検討
- ・第2の保育園運営の検討
- ・放課後児童クラブ受託の積極化

III 働く人が納得し、働きがいがある体制の強化

- ・多様な人材が活躍できる働き方の多様化と柔軟な勤務体制の検討
- ・AI・ICT・介護機器等の活用による業務効率化と職員負担の軽減
- ・職員が働く意義と成長を実感できる体制づくりの推進
- ・「1分残業制度」に向けての体制整備
- ・安心安全な施設内環境の整備

IV 法人組織の見直し

- ・次世代を担う人材の育成および登用
- ・役割、権限、責任の明確化による組織体制の整理
- ・将来を見据えた持続可能な組織体制の構築を進める
- ・目的や理念を共有できる法人との連携の検討、情報収集